

令和7年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物

指導者 尾道市立御調西小学校 藤本 晴菜
第5学年1組 14名

- 1 単元名 和文化のひみつ—私は文化を受けつぐとはこう考える！
「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」（東京書籍 「新編 新しい国語 五」）

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第5学年及び第6学年の〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」の指導事項（1）ウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。」、オ「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」を受けて設定している。

「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」力を育成するには文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したことを基に既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成したりすることが必要となる。

本単元で扱う説明的な文章「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」は、和菓子が外国の影響を受けながら発展し、日本の年中行事や茶道と深く結び付いてきたことを歴史的な流れに沿って説明しているの、事実を整理し、文化の意味を理解するのに適している。さらに、資料「和菓子職人ビル・リオングレローさんの思い」では、異国から来て和菓子作りに挑戦した職人が、季節感や日本文化を大切にしながら新しい和菓子を生み出している姿が紹介されている。そのため本文と資料を合わせて読むことで、児童は和菓子が「伝統を守る」だけでなく、「新しい工夫によって受けつがれていく文化」であることに文章や図表を結び付けることで気付くことができる。また、本文と資料を照らし合わせることで、事実と意見を区別し、根拠をもとに解釈を深めることにもつながる。このように、児童が文章に書かれた事実をもとに、自分の生活や体験と結び付けて考えをまとめ、日本の文化の意味や継承の大切さについて理解した内容と結び付けて自分の考えを形成する力を育てるのに適している。

(2) 児童観

本学級の児童は、5月に学習した説明的な文章「インターネットは冒険だ」において、「序論」「本論」「結論」の結び付きを捉えたり、具体例やキーワードを丸で囲んだりしながら読み取り、筆者の意見に対する自分の意見をまとめてきた。情報の世界を冒険に例える表現に注目し、叙述と自分の経験を結び付けながら読み進めることは、筆者の意図を理解する手立てとして有効であった。その結果、文章中の事例が、筆者の主張を補強する役割をもっていることに気付き、文章や図表を結び付けながら筆者の主張を基に自分が解釈したことをまとめる児童が増えてきた。一方で、本単元で育成したい資質・能力の「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」ことについては、文章の表現と自分の経験を関連付ける際に、根拠となる叙述に基づいて考えるのではなく、単なる自分の考えの主張にとどまってしまう児童もおり、精査・解釈しながら本文と結び付けて考えをまとめる力を育成していくことが課題である。

(3) 指導観

指導に当たっては、児童の既存の知識や経験を喚起するため、単元の導入時に、身近に思いつく和文化や和菓子についてイメージマップで興味を広げたり、画像を提示したりする。また、10月後半に行う道徳参観日において、C(17)「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の内容項目を扱い、地域の伝統である「みあがりおどり」の保存会の方をゲストティーチャーに招き、自分も「みあがりおどり」などの伝統や文化を受け継ぐ一員であるという心構えを育てることをねらった学習を行う。このときに知ったことや考えたことを結び付けながら文章を読み進められるようにする。文章を精査・解釈する過程では、文章と図表などを結び付け、教材文が伝える「文化を受けつぐ」とはどういうことなのか、ということについて解釈するという目的に必要な情報を見付けるために、叙述に丸をしたりサイドラインを引いたりして必要な情報を可視化させること、ワークシートを用いて整理させること、ペアやグループで交流して互いの考えや理由を伝え合うことといった手立てを講じる。この学習活動で理解したことに基づいて、自分の知識や

経験と結び付けて、考えをまとめるために、道徳の時間に知ったことや考えたことを想起しながら、本単元を通じて更に考えたこと、文化の担い手として行いたいことなどについて文章化させることとする。これらのことを通して、理解したことを自分の言葉でまとめ、相手に伝えようとする力を高めていく。

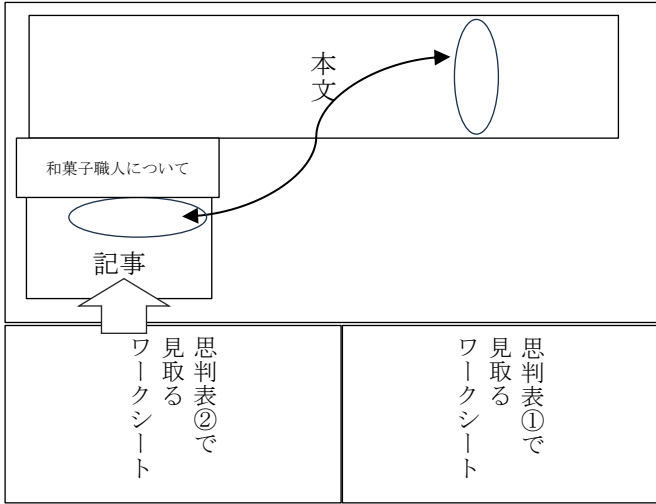
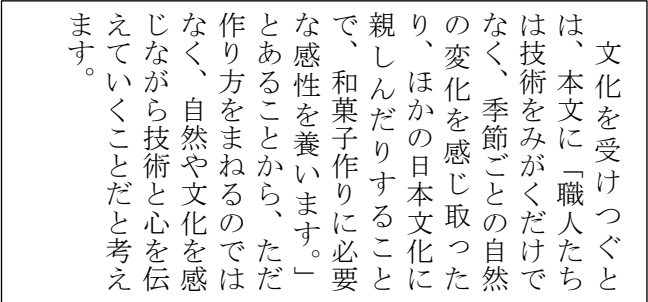
3 単元の目標

- 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関連の表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) オ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係付けの仕方を理解し使っている。((2) イ)	① 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。(C (1) ウ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C (1) オ)	① 粘り強く、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめ、学習課題に沿って分かったことや考えたことを書きまとめようとしている。

<評価の具体及び手立て>

	<p>評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】</p>	<p>「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て</p>
<p>知識・技能①</p>	<p>情報と情報との関係付けの仕方を理解している。 （（2）イ）</p> <p>ワークシート</p>  <p>本文とインタビュー記事の内容で関係していることを端的にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p. 155 0. 1、記事見出し「和菓子職人」 ・ p. 156 0. 5、記事0. 10「和菓子作りは奥が深い」 ・ p. 156 0. 4、p. 155 0. 12、記事0. 31「作る人だけでなく、関わるすべての人が和菓子の文化を支えている」 ・ p. 156 0. 5、記事0. 22「伝統を大切にしながら作られている」 <p>（上記の・を段階的に関係付ける。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係のある図や記事内の文を指導者が指し示し、記事があると本文のどの部分を、詳しく説明しているか、本文のどことどんな風に関係しているのか考えさせ、具体例から情報と情報との関係付けの仕方の理解につなげる。
<p>思考・判断・表現①</p>	<p>「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなど必要な情報を見付けている。 （（C（1）ウ）</p> <p>ワークシート</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記事の内容と本文で結び付いているところを再確認する。

「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C (1)オ)

ワークシート
修正時の利便性を考慮し、文書作成・デザインソフトを使用する。

- ① 文章を読んで考えたり理解したりしたこと（既
有の知識や経験も含む）
- ② これらを結び付けて形成された自分の考え



私は「和の文化を受けつぐ」を読んで、文化を受けつぐとは、本文に「職人たちは技術をみがくだけでなく、季節ごとの自然の変化を感じ取ったり、ほかの日本文化に親しんだりすることで、和菓子作りに必要な感性を養います。」とあることから、ただ作り方をまねるのではなく、自然や文化を感じながら技術と心を伝えていくことだと分かりました。

このことを私の地域に伝える「みあがりおどりに置き換えると、私はこれから、このおどりだけでなく、他の地域のおどりにについても調べたいです。また、私は高学年なので、これから、このおどりを次の学年に引きついでいく立場になります。ただおどりの動きを伝えるだけでなく、おどりの意味や地域の方の思いを伝えながら、御調の文化を支えられる存在になりたいです。

・身近に受け継がれてきた和の文化を想起させ、どんな歴史や文化があり、どんな人が支えてきたのかについて具体的に考え、本文との関連を図り、実感を伴った理解につなげる。

主体的に学習に取り組む態度①

粘り強く、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめ、学習課題に沿ったことを考えたことと説明しようとしている。

友達や教師と交流した際に得た助言や指導を踏まえて、試行錯誤しながら粘り強く自分の考えの書き表し方を工夫している。

他の児童や教師から得た助言を踏まえて、自分の考えをまとめた文章に修正を加えたりするなど、粘り強く形成した自分の考えを見直そうとしているかを見取る。その際、修正点がない場合も、自分の考えを客観的な視点を踏まえて見直し、その意図を説明していれば「おおむね満足できる」状況（B）にあると判断する。

・本文のどの部分と記事のどの部分を重ねたのか、どういことが書きたいのか、児童の思いを聞き、考えを整理する。

私は「和の文化を受けつぐ」を読んで、文化を受けつぐとは、本文に「職人たちは技術をみがくだけでなく、季節ごとの自然の変化を感じ取ったり、ほかの日本文化に親しんだりすることで、和菓子作りに必要な感性を養います。」とあることから、ただ作り方をまねるのではなく、自然や文化を感じながら技術と心を伝えていくことだと分かりました。

（丸）文章を読んで理解したことを、本文の表現を使って書く。

（丸）これまでの自分と比べる

私は今まで和菓子を食することはあっても、和菓子を作っている人がどのように和菓子を受けついでできたのかについては考えたことがありませんでした。

私の地域には「みあがりおどり」という伝統的なおどりがあります。地域のたくさんの方に動きを教えてください、運動会や出雲大社での奉納では色々な方に見ていただいています。私はこれから、このおどりだけでなく、他の地域のおどりについても調べたいです。また、私は高学年なので、これから、このおどりを次の学年に引きついでいく立場になります。ただおどりの動きを伝えるだけでなく、おどりの意味や地域の方の思いを伝えながら、御調の文化を支えられる存在になりたいです。

（丸）具体的に自分の考えを書く。

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法 等
一	1	○本単元の学習の流れを確認する。 ・「文化を受けつぐ」ことについて自分の考えをまとめる活動を通して複数の文章を関係付けて読む力を身に付けることを確認する。				
二	2 ・ 3 ・ 4	○本文と図表、本文と記事の関係をまとめる。 ・本文中の図表が本文のどこを詳しくしているのか、線を引いたり四角や丸で囲んだりしながら結び付け、本文の内容を正確に理解する。 ・インタビュー記事があることで、本文のどの部分をさらに詳しくしているのか、線を引いたり四角や丸で囲んだりしながら結び付け、文章の内容についての理解を深める。 ・関係性のある図や記事内の文を指し、記事があると本文のどの部分を、詳しく説明しているか、本文のどことどんな風に関係しているのか考える。	○			〔知識・技能①〕 <u>ワークシート</u> 情報と情報との関係付けの仕方を理解し使っているかの確認
	5	○文化を受けつぐことについて考える。 ・本文や記事から必要な情報を見つけ、自分の考えた「文化を受けつぐ」ことについて文章にまとめる。		○		〔思考・判断・表現①〕 <u>ワークシート</u> 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けているかの確認
三	6 (本時)	○文化を受けつぐことについて自分の考えをまとめる。 ・本文と記事を読んで理解したことに基づいて、既存の知識や経験と結び付けて自分の考えをまとめる。 ・文化を受けつぐことについてまとめた自分の考えを共有する。		○		〔思考・判断・表現②〕 <u>ワークシート</u> 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめているかの確認
	7	○学習過程を振り返り、努力したことやこの学習がどのようなときに生かすことができるかを考える。			○	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>児童の様子</u> 粘り強く、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめ、学習課題に沿って分かったことや考えたことを書きまとめようとしているかの確認

6 本時の学習

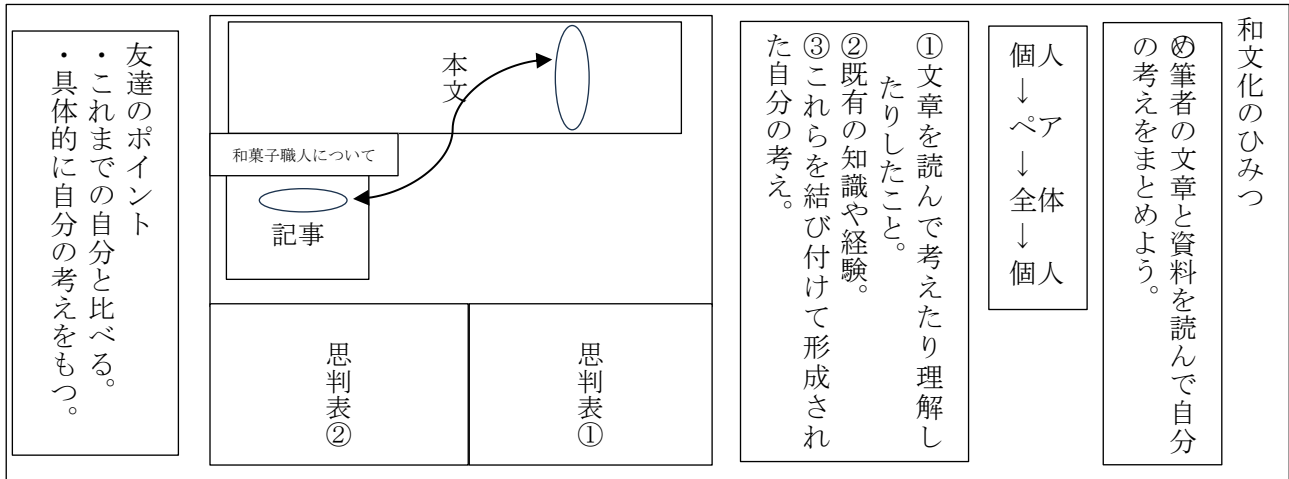
(1) 本時の目標

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。【思・判・表】

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1 前時の学習を振り返る。		
2 学習課題を確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ◎筆者の文章と資料を読んで自分の考えをまとめよう。 </div>		
3 音読をする。	○本文を正しく読み、意味をつかみながら読む力を付ける。 ◆音読に課題のある児童には指で読むところをなぞりながら読むように声をかける。	
4 自分の考えを文章にまとめる。	○①文章を読んで考えたり理解したりしたこと。 ②既有的知識や経験。 ③これらを結び付けて形成された自分の考え。 に沿って書くことを提示することで見通しをもたせ、書くことへの意欲につなげる。 ◆自分で文章をまとめることが難しい児童には、書き始めを記したヒントカードを活用するか選択させる。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 [思考・判断・表現] (ワークシート)
5 「文化を受けつぐ」ことについて自分ができることを考える。 (個人→ペア→全体→個人)	○全体交流をした際に、友達の考えについて分かったことをメモするよう声をかけ、自分の考えとの違いや他者の考えのよさに気付けるようにする。	
6 本時の学習を振り返る。	○本時の学習で考えたこと、友達の考えを聞いて分かったことを書く。	

(3) 板書計画



6 指導の実際

(1) 指導上の工夫

ア 単元計画

- ・ 単元はじめに学習計画（図1）を児童と立てた。また、和の文化についてイメージを広げ（図2）、単元の見通しをもてるようにした。

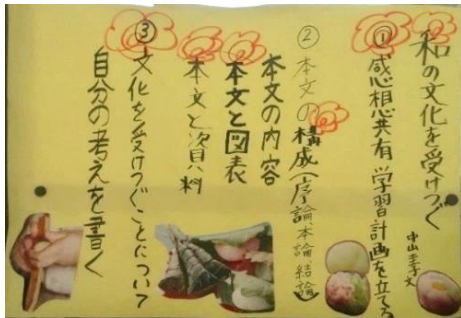


図1 学習計画表

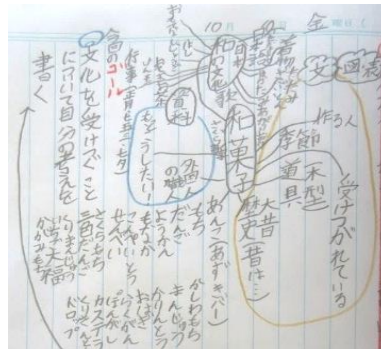


図2 和の文化についてのイメージ（児童の記述）

4年時に学習した「くらしの中の和と洋」に関わる衣食住について、地域の伝統行事についてなど、マッピングすることで和についてのイメージを膨らませ、多くの語を記入することができた。

イ 教材

- ・ 本文シートを作成し、1枚で本文や資料など全体を見ることができる教材（図3）にした。また、本文シート下は自分の考えを書き、本文と資料をどのように結び付けたのかが視覚的に分かるように、また友達の考えや教師の助言を書き加えながら考えを形成できるようにした。



本文シートの拡大版を用意し、文章と図表などを結び付けながら視覚的に分かりやすくした。
また、おせちの料理に込められた思いや「野分」など語句の意味も具体的に書き込んだ。

図3 本文シート

- ・ 成果物作成時には、書き込んだ自分の考えをまとめるため、修正時の利便性を考慮し、縦書きのできる文書作成・デザインソフトを使用した。(図4)



図4 児童が考えを形成した学習成果物

ウ 板書・掲示・振り返り

- ・ 第6時において〔思考・判断・表現②〕を考える際に、第5時で〔思考・判断・表現①〕について整理したものを大型テレビに映して共有し、前時までの学習と関連付けながら思考できるようにした。

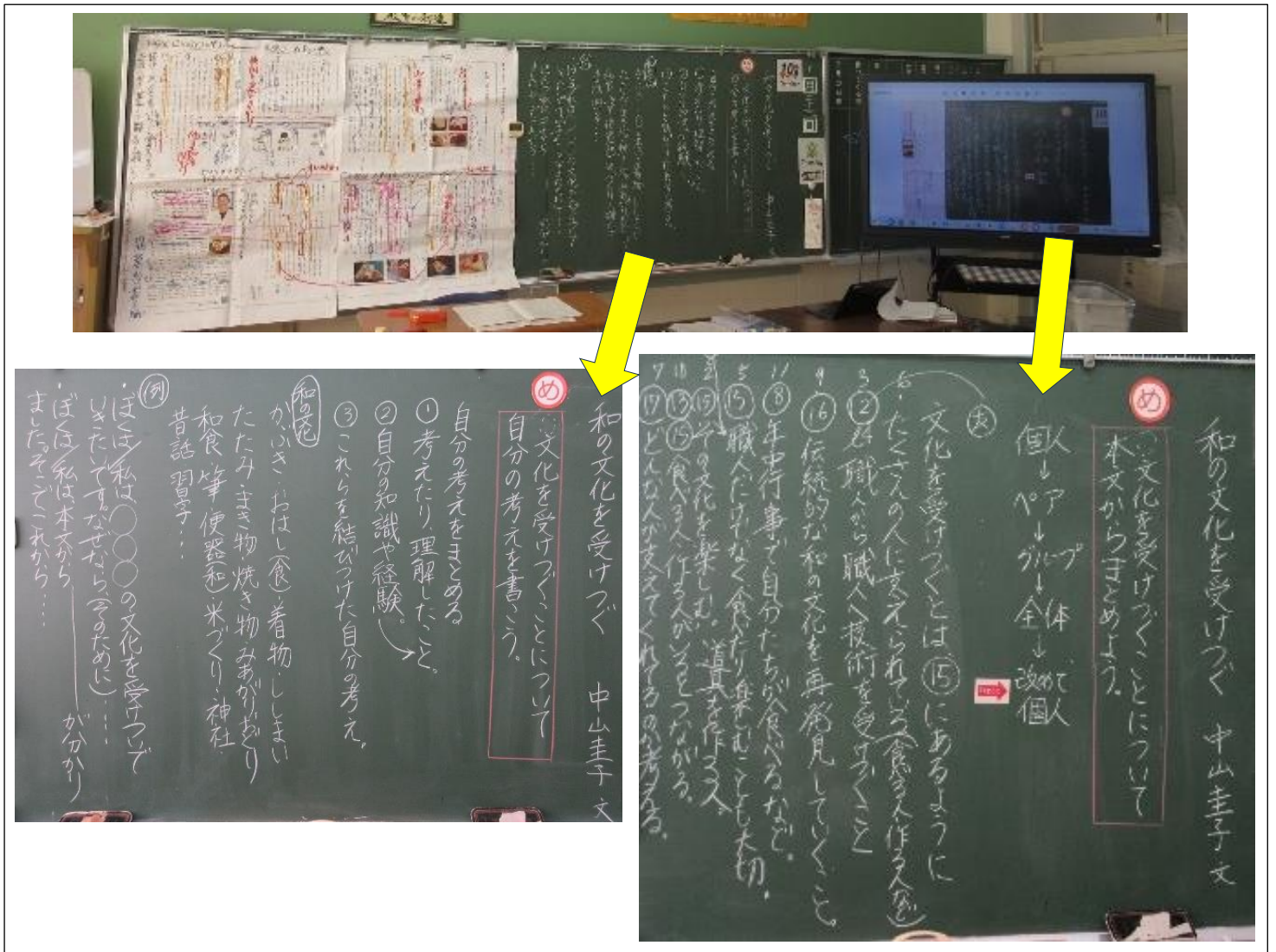


図5 第6時の板書と大型テレビに投影した第5時の板書

- ・ 学習成果物は、作成後に教室に掲示（図6）し、児童同士で、形成した考えを書いた文章を相互に読み合い、再度自らの考えをまとめる活動を行った。



図6 形成した考えをまとめた学習成果物を掲示したもの

友達の考えを読んだ感想や、分かりやすい表現だと思ったことを付箋で伝えた。

児童にとっては、形成した考えを共有することで、表現の仕方を見直す機会にもなった。

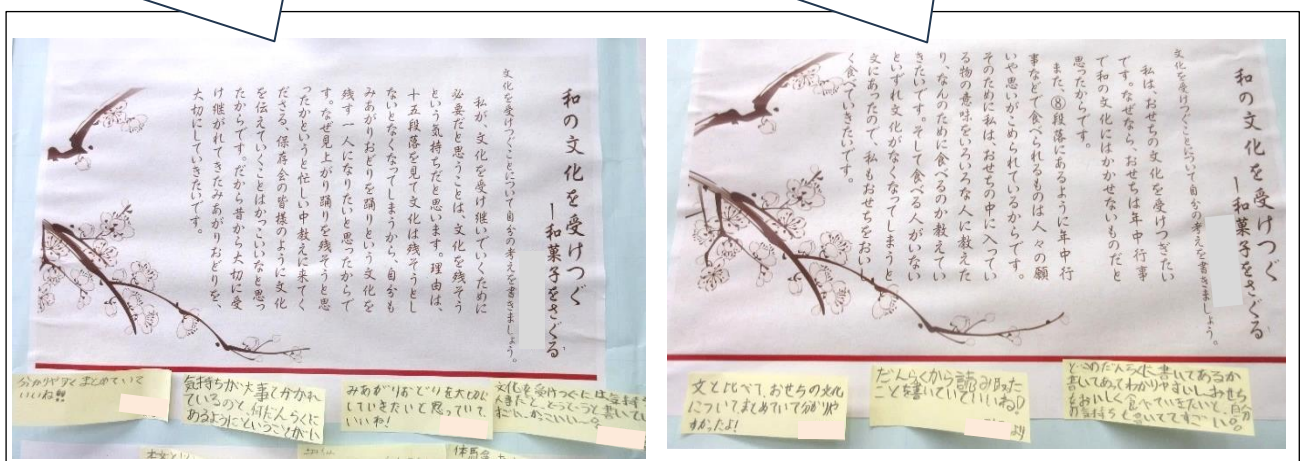


図7 付箋を貼って気づきを伝え合った学習成果物

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

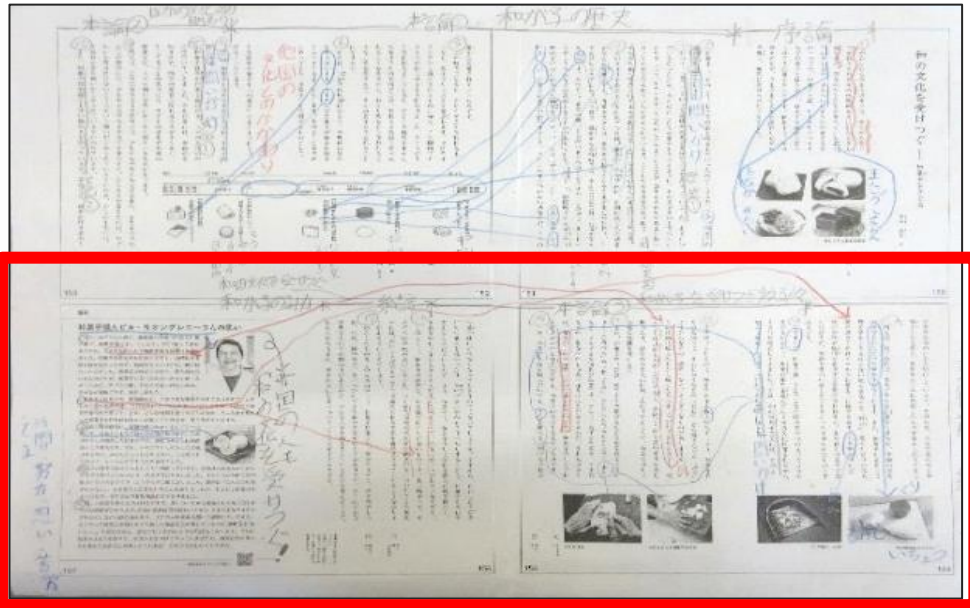
- ・ 本教材には、「木型」や「ふきよせ」など、児童にとって聞きなじみのない言葉には写真があるため、イメージしやすくなっている。しかし、「年中行事」や「野分」など写真のない言葉については、意味を正しく理解できない児童もいた。そこで、国語辞典やインターネットを使い、「年中行事」の一つであるおせちの料理に込められた思いや、「野分」が和菓子の名前だけでなく秋の季語でもあること調べて互いに伝え合う活動を設けた。こうすることで、児童が言葉の意味やイメージをより具体的にもてるようにした。
- ・ 第6時に、文化を受けつぐことについて自分の考えをまとめる活動を行った際に、自分の考えを記述することが難しい児童がいたため、本時の流れの中でペアワークを行わせ、書き出し例や文章構成の型を板書して示した（図5）。さらに、これまでのワークシートへの書き込みやノート、これまでの板書の写真などを教師が指し示したり再度読ませたりしながら、当該児童自身のこれまでの思考を振り返らせることで、文化を受け継ぐことについての理解を再確認できるよう支援した。その上で、個別支援を机間指導で行い、自分の伝えたい考えを整理し、これまでの学習で考えてきたことを踏まえて記述できるよう声かけを行った。

7 評価の実際

(1) 評価の具体 知識・技能

「十分満足できる」
状況 (A)

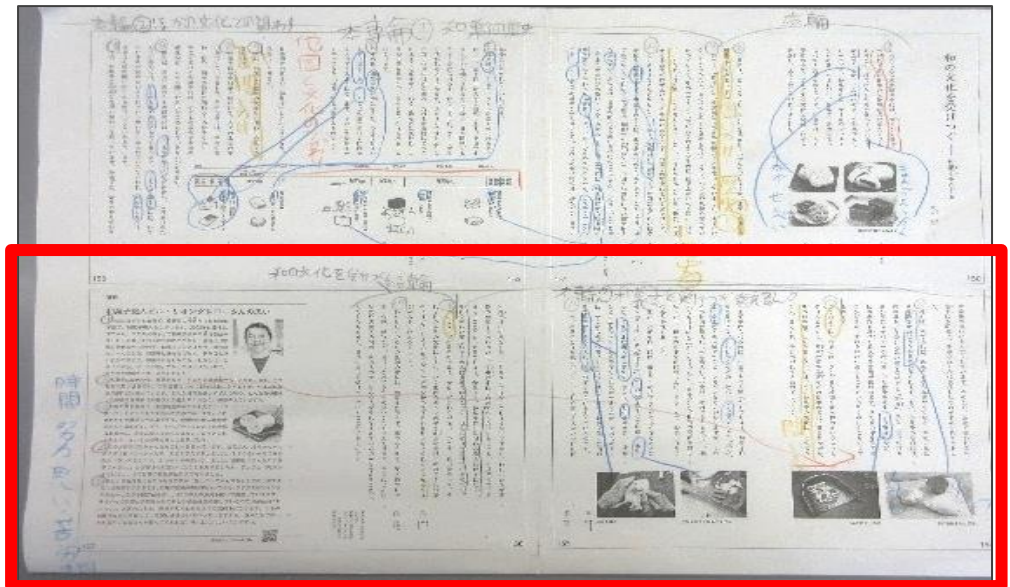
本文と本文、本文
と図表、本文とイン
タビュー記事の内容
で関係していること
を複数箇所線で結ん
で端的にまとめる。
また、短い文でまと
めている。



- 本文と資料をつなぎ、「外国の人も和の文化を受けつぐ」、「和の文化を受けつぐ和が子のみ力 (稿者注：和の文化を受けつぐ和菓子の魅力)」と記述している。
- 本文同士をつなぎ、「和の文化を受けつぐ人々」と記述している。

「おおむね満足でき
る」状況 (B)

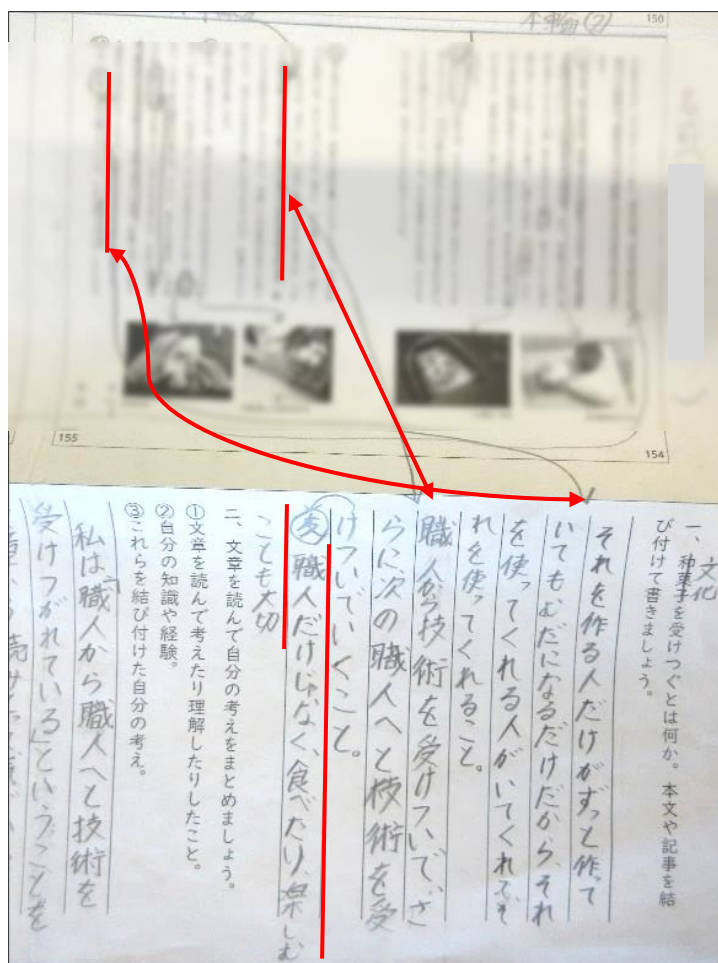
本文とインタビュ
ー記事の内容で関係
していることを端的
にまとめている。



思考・判断・表現①

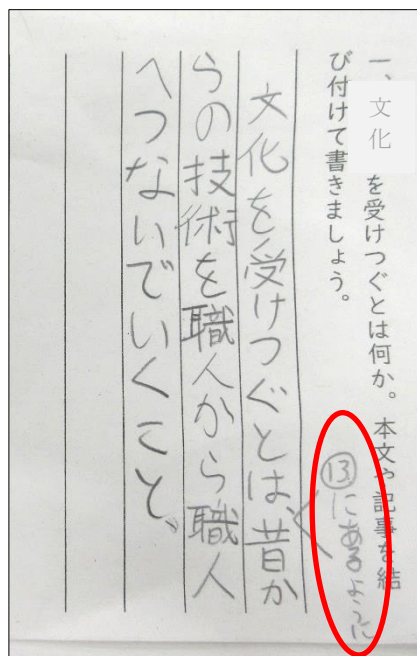
「十分満足できる」状況（A）

目的に応じて、文章と図表などを線で結び付けるなどして必要な情報を見付けている。また、友達の見解も書き込んで自分の考えに生かし、考えをより確かなものになっている。



「おおむね満足できる」状況（B）

目的に応じて、文章と図表などを結び付けながら必要な情報を見付けて表現している。



※「本文シート」において、本文の13段落と資料を線で結んだ上で、右のように記述していた。

思考・判断・表現②

「十分満足できる」状況（A）

文章を読んで考えたり理解したりしたこと（既有的知識や経験も含む）から形成された自分の考えを2つ以上表現している。また、本文にある文化と自分が受けつぎたい文化を比べて分かったことを書いている。

本文：職人から職人へと技術を受けつがれている。

→自分もみあがりおどりを踊って受けつぎたい。（赤線）

→後輩にも受け継ぎたい。（赤線）

本文：和菓子には思いが込められているものがあります。

→みあがりおどりに込められた思いがある。（青線）

文化を受けつぐことについて自分の考えを書きましよう。

和の文化を受けつぐ
—和菓子をさぐる—

私は、「職人から職人へと技術を受け継がれている」ということを文章から読み取って気づいたことがあります。それは、身近な文化を受け継いでいくことです。その中でも、私はみあがりおどりを受け継いでいきたいです。なぜなら、みあがりおどりは、「田んぼに雨を降らせたい。」という思いが込められて、古くから受け継がれてきた踊りで、この学校の先輩達も、みあがりおどりを踊り、受け継いできたからです。なので、これからも一生懸命みあがりおどりを踊って、みあがりおどりを受け継いでいきたいです。さらに、後輩たちにも、みあがりおどりを受け継いでいきたいです。

「おおむね満足できる」状況（B）

文章を読んで考えたり理解したりしたこと（既有的知識や経験も含む）から形成された自分の考えを表現している。（赤線）

文化を受けつぐことについて自分の考えを書きましよう。

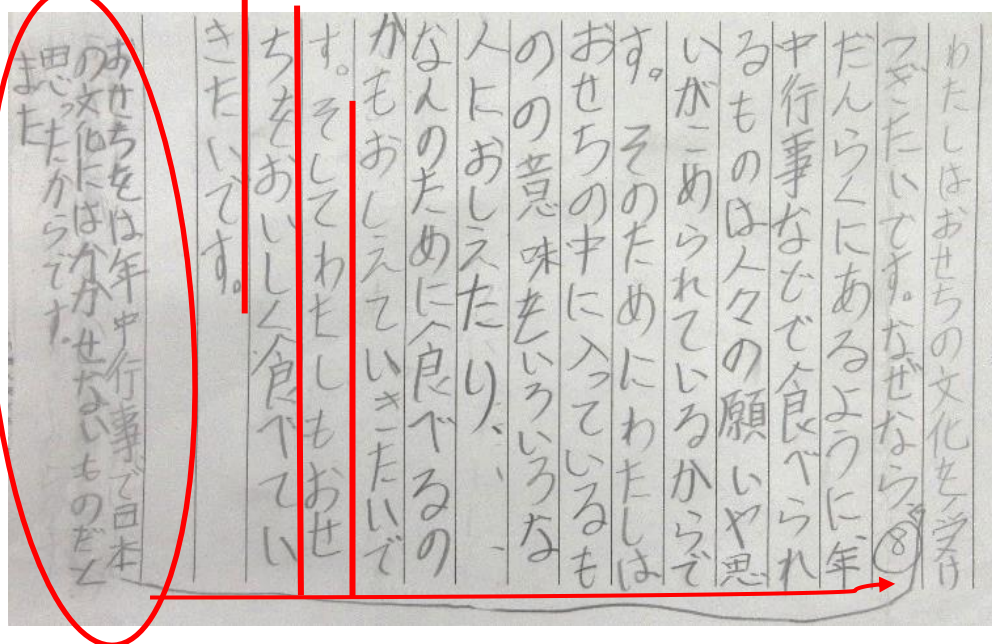
和の文化を受けつぐ
—和菓子をさぐる—

ぼくは、和食の文化を受けついでいきたいです。そのためにもまず本文にあるように和菓子は、先ばいの職人に教えてもらっているから僕も教えてもらいたけれどその先ばいがいないからぼくは、図書館にある和食の本で和食のことを知りたいです。そして和菓子と同じでその季節にあった食材を使ってお母さんと和食を作って家族に食べてもらいます。そして最初は、なれないからダメと言われても何度もちょう戦しておいしいと言われるまでやります。そのようにして自分が食べたたり作ったりして文化を受けつぎたいです。

主体的に学習に取り組む態度

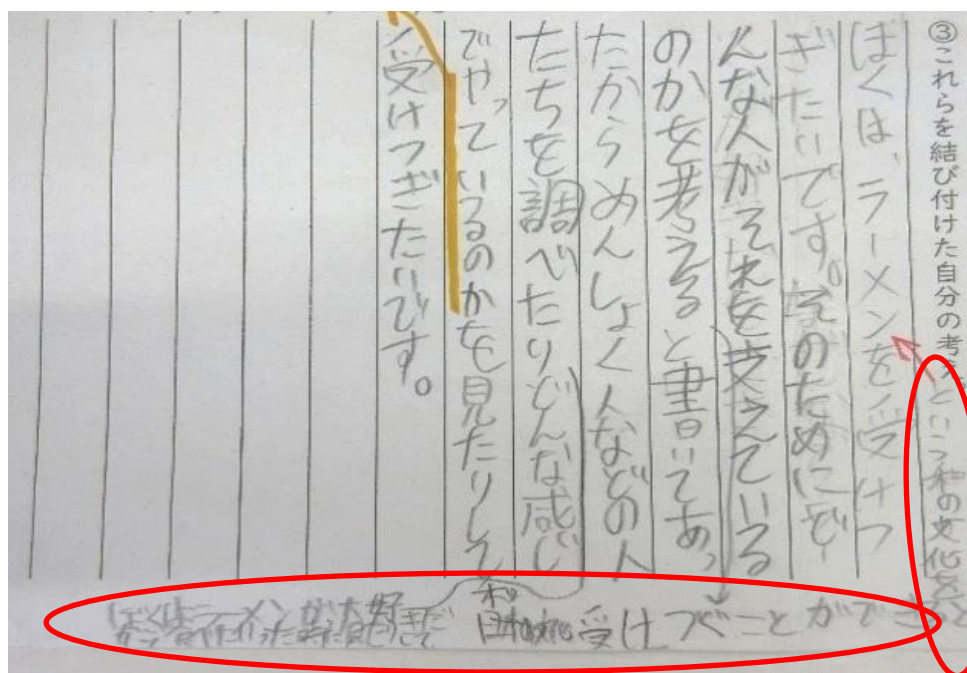
「十分満足できる」状況 (A)

粘り強く、友達や教師と交流した際に得た助言や指導を踏まえて、試行錯誤しながら自分の考えの書き表し方を工夫したり、友達の意見も書き込んだりしている。



「おおむね満足できる」状況 (B)

他の児童や教師から得た助言を踏まえて、自分の考えをまとめた文章に修正を加えたりするなど、粘り強く形成した自分の考えを見直そうとしている。



(2) 児童の評価

知識・技能①

「情報と情報との関係付けの仕方を理解し使っている。」における「十分満足できる」状況 (A) の児童は5人、「おおむね満足できる」状況 (B) の児童は7人、「努力を要する」状況 (C) の児童は2人だった。

思考・判断・表現①

「「C読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけている。」における「十分満足できる」状況 (A) の児童は4人、「おおむね満足できる」状況 (B) の児童は8人、「努力を要する」状況 (C) の児童は2人だった。

思考・判断・表現②

「「C読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」における「十分満足できる」状況 (A) の児童は3人、「おおむね満足できる」状況 (B) の児童は8人、「努力を要する」状況 (C) の児童は3人だった。

主体的に学習に取り組む態度

「粘り強く、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめ、学習課題に沿って分かったことや考えたことを書きまとめようとしている。」における「十分満足できる」状況（A）の児童は3人、「おおむね満足できる」状況（B）の児童は11人、「努力を要する」状況（C）の児童は0人だった。

8 成果と課題

(1) 成果

- ・ 単元を進める中で、道徳の「伝統と文化の尊重」の学習として、地域に伝わる「みあがりおどり」について保存会の方をゲストティーチャーとして招き、伝統や受け継いでほしい思いを聞く機会があった。また、地域の行事で「みあがりおどり」を披露する機会があり、6年生が最後の発表を行う様子を通して、5年生はこれから伝統を受けつぐ立場になることを実感した。また、図画工作科では本文に出てきた和の文化の一つである焼き物づくりを体験した。教科や行事と時期を合わせて横断的に進めていくことで、児童が身近に和の文化を感じながら学習を進めることができた。
- ・ 本文・図表・資料と思判表①②のワークシートを一つにまとめた教材を用意したことで、文章と図表を結び付けながら読み取りやすくなり、複数の文章の関係を捉えながら自分の考えを書きやすいものになった。
- ・ 文化についての自分の考えを書く際に、いきなり書かせるのではなく、まず、文化を受けつぐことについて教科書から読み取ったことを書き出させ、その後、自分の考える受けつぎたい文化と照らし合わせながら考えさせた。段階的に行ったことで、普段自分の考えを書くことが難しい児童も自分事として捉え、書く活動に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・ 本時の前の時間に本文や資料を使って「文化を受けつぐこと」について考えさせたが、本文から1つしか見付けられない児童がいた。早めに共有し、様々な捉え方ができることに気付かせることができたならよかった。
- ・ 文の構成を捉えさせる際に、本文と図表、本文と記事の関係をまとめる活動を行わせた。個人での思考後にペアや班で共有し、全体で発表するという流れが定着しており、活動が単調になってしまう様子が見られた。そこで、個人で考えた内容を踏まえ、班に拡大資料を配布して協力してまとめさせる活動にすることで、より主体的で協働的な学びが促せたのではないかと考える。
- ・ 文化についての自分の考えを書く際に受けつぎたい文化とそれに対する思いだけを書き、前時に本文から読み取った「文化を受けつぐこと」について結び付けながら書いていない児童がいた。本時に入る前にもう少し自分が読み取った文化を受けつぐことについて確認し、これから書く全体の構成を捉えさせることで、「本文からこう捉えたから、自分はこう考える」という思考の流れができたのではないかと考える。

(3) 今後に向けて

- ・ 次の単元が「和の文化を発信しよう」という「書くこと」の単元であり、調べ学習を通して、日本の伝統や文化についてより理解を深めていく内容であったため、本単元と並行して学習を進めることで、受けつがれてきた文化の背景やそれを大切にしている人々の思いに気付き、そうした文化を未来へとつないでいくことの意義について、より具体的で実感を伴った考えをもつことができたのではないかと考えた。より学習単元を見通した単元計画を行うようにしていく。
- ・ 普段から行事のたびに出来事、感想を書き、新聞投稿する活動をしているため、自分の知識や経験と結び付けて文章を書く経験はあった。しかし、文章の内容と合わせて書く経験が少なかつたため、文章を書くときに難しいと感じている児童がいた。国語科だけでなく、他教科でも本などから分かった内容と自分の知識や経験と結び付けて書く活動を取り入れていく。